

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく家庭的な雰囲気」をモットーに地域や家庭との結びつきを重視した運営を理念にかかげ利用者が生活出来るよう心掛けている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に掲示し、管理者・職員は、つねに理念を念頭に置き日常の業務を行っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営懇談会に地域の方に参加して頂きホームでの活動報告や「グループホーム通信」を年1回発行し、地域の方に配布している。	○	納涼祭などホームで行う大きな行事には、地域の方にも参加をお願いしたり、ご家族には一緒に参加できる企画を考え、楽しんで頂けるようにしている。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員は外で出会った時など、声を掛け合ったり、またご近所の方から家で咲いた花や野菜など頂いたりして交流はあるが、ホーム内に立ち寄っていただくまでには至っていない。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の災害訓練やクリーン作戦にまれに参加する事はあるが、特に地域の人々と交流する機会は少ない。老人会は住所など問題もあり難しい。	○	地域の行事・活動にもっと気軽に参加できるように取り組んでいきたい。

グループホーム藤の都(A棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>運営懇談会の折、市役所、地域の方と話し合いお互いに協力し合える事を話合っている。</p>	○	<p>水害等の災害時、地域の独居高齢者を一時的に事業所で受け入れられるよう話し合い、その体制がある。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者・職員は自己評価等の実施の意義を理解しており改善すべき問題点を解決出来るように努めている。</p>	○	<p>実施後全体会議を開き、職員全員で話し合い、問題解決に取り組んでいる。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>毎回、テーマを決めそのテーマについて出た意見を参考にし資料を作成したり、検討を行い利用者へのより良いサービスに努めている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>判らない事や相談がある時には市役所に行けば担当者に対応して話し合いに応じてくれる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修の場を設け職員には学習の機会があるが、現在ホーム内で成年後見制度が必要な方はいらっしゃらない。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員全員が研修に参加して理解しており、その防止に努めている。</p>		

グループホーム藤の都(A棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所の際に書面にて渡し、管理者が分かり易く説明、不明な点や疑問点にも丁寧に説明し理解を得ている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情処理窓口を掲示している他、定期的な介護相談員の受け入れにより、利用者の不満・苦情を話せる機会を作っている。またその都度・改善するように努めている。</p>	<p>○</p> <p>家族の面会時にも、利用者が不満など訴えていないか、声掛けをして聞き取るように心掛けている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会の際に、あるいは緊急時には電話にて利用者の状態等を報告している。また3ヶ月に一度、広報誌「都便り」を作成し、ホームでの活動報告、案内を出している。</p>	<p>○</p> <p>金銭については個々に出納帳を作り、入金時にレシートの返却・確認をもらい印を頂いている。職員の移動については、ホーム便り等に記載しお知らせしている。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営懇談会で家族の意見を聞く他、苦情処理の概要を掲示、ホーム以外の相談窓口の案内を一緒に明示している。</p>	<p>○</p> <p>懇談会終了後、個別に話を聞いたり、来訪時に何か困っている事がないかなど積極的に聞くようにしている。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の意見はその都度、管理者に伝えるようになっており反映させている。又運営者にもすぐ意見を言えるようになっていく。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>毎日ではないがフリーの職員を配し、事前に用事があれば、配置する余裕があり柔軟に対応している。</p>	<p>○</p> <p>2ユニットあるうちの約半数の職員を共通の職員とし、急な変化や要望に対し、より柔軟に対応出来るようにしている。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>最小限に抑えるようにしており移動の際でも、常に馴染みの職員と組み、利用者が安心出来るような勤務状況を作り対応している。</p>	

グループホーム藤の都(A棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設内外を問わず研修は定期的を受けている。また個々の興味・関心に応じ研修を自由に選択し受ける場も設けている。</p>	○	<p>運営者主催で定期的に職員の研修会を開いており力を入れている。個々が受けた外部での研修を共有出来る様、勉強会を開きたいと思っている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH連絡協議会を通し他施設の見学や相互交流、研修を行い交流する機会を作っている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>年1回の慰安旅行の他、職員で親睦会を作り食事会等で、交流やストレスの緩和に努めている。また人間関係のトラブル等は相談でき解決できるようになっている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員、個々に応じ役割を決め、責任を持って業務に取り組めるように働きかけている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事業所相談員と連携し情報の共有を行い入所前に見学してもらい本人の思いを引き出すようにしている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事業所相談員と連携し情報の共有を行い入所前に見学や入所時の説明時に家族の思いや希望を聞く機会を作っている。</p>	○	<p>独自の情報シートを用意しご家族に記入して頂き、より多くの情報を引き出せるようにしている。</p>

グループホーム藤の都(A棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず事業所の相談員の対応になり、グループホーム対応になった場合に情報提供があり対応している。入所後、状態に変化があった場合は、また相談員と連携を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所に不安がある場合は見学やショートとして利用し本人が安心して利用していただける様支援する体制がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の気持ちにハリや潤いを持って頂くため職員は言葉かけ、雰囲気作りを大切にして本人の気持ちに共感しながら共に生活している。	○	料理の下ごしらえや、吊るし柿のやり方などを教えて頂きながら共に行っている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームがある事により、家族も気持ちに余裕が出来、面会時には職員と共に利用者と共に過ごされる事もある。	○	面会に来られても、フロアで他入所者と共にお話されて帰られるご家族もある。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームの行事への参加をお願いしたり、なるべく利用者が家族と共に過ごす時間が持てるように援助している。	○	ホームに来られても会わずに帰ろうとするご家族にも、本人の様子を話し少しでも会って頂くよう話している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が来られる場合もあるが、おたがいに高齢という事もあり徐々に疎遠になっている。ホームから会いにいける支援は行っていない。	○	節目などに作業でした絵手紙を出すなどして交流が途切れないように援助していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の性格を把握しテーブルの位置を決めお互いに助け合う場合を作ったり、付き合いが偏らないように職員が間に入り、円滑に進むよう援助している。		

グループホーム藤の都(A棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	同事業所に移動された方には職員が会いに行っている。家族には相談員との連携を密にして援助している。	○	利用者が会いに行ったり、ホームに遊びに来たりする事が出来るようにしてあげたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	折にふれ本人の思いが汲み取れるよう話をしケアプランの作成に努めている。また家族にも本人の思いを伝え協力していただける様をお願いしている。希望があった場合は記録に残しカンファレンス時に生かせるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、入所されてからも本人、家族と話し、常に把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の身体状況を把握し、職員全員が本人の出来る事、出来ない事をみつけるように努力している。	○	個別に用紙を作り、排泄パターン、バイタル、睡眠時間などが一目でわかるようにしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の思いを聞き、医師の意見を参考にしながら職員・看護師で意見交換を行いケアプランの作成に努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人に状態変化が見られたときは、すぐにカンファレンスを開き、本人の変化に即したケアプランを作成している。		

グループホーム藤の都(A棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のカルテをつけ、ケアプラン・心身状態の情報を共有し職員が日々の介護・見直しに活用している。	○	特に共有したい気づき等は職員用の申し送りノートに記入し意見を聞いたり、周知の徹底を図っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じ柔軟な対応が出来るように努めている。	○	同事業所内に療養棟・老人保健施設・デイサービス・小規模多機能があり、柔軟な対応ができる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	介護相談員の受け入れや地域の学校の体験学習を受け入れている。また事業所内でボランティアの訪問がある場合は、こちらから行くようにしている。	○	同事業所の作業療法士が週1回来てくれている。また理学療法士、言語療法士に相談、アドバイスをもらえる体制がある。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険の他サービスを受けることは出来ないが同事業所の他の施設との交流を行っている。	○	散歩の途中でグループホームや小規模によりお茶やおしゃべりをして交流を広げる回数を増やしていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	市役所の福祉課などとの連絡を密にするようにしていきたい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人なので、対応できるが入所時に希望を聞き受診が出来るように支援している。		

グループホーム藤の都(A棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>ほぼ毎日訪問がある事で連携を密にし、夜間でも特変時には医院に連絡しすぐ対応出来るようになっている。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の声かけには本人を尊重した声かけ・対応を心掛けている。また個人情報の書かれた書類等は大切に保管し保護に努めている。	○ 馴染みの関係で、職員の対応が馴れ合いになっていないか会議やカンファレンス時に再確認するようにしている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は本人の状態を把握しており、その人に合わせた対応で、本人が選択する事、納得する事を大切に支援を行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し対応に心掛けているが希望が重なる場合や外出の要望に関しては職員の人員上すぐに対応出来ない時もある。	○ 大体1日の流れが決まっているが、利用者の希望に合わせて内容の変更や時間を調整し職員同士協力して出来るだけ待たせないケアをしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	現在、本人・家族の希望を聞いて理容店からホームに来てもらっている。	○ 本人の希望、家族の協力を得て、美容院に行かれる方もいらっしゃる。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生会や行事の希望献立や季節の食べ物を取り入れ、暖かい食事を提供できるよう役割を決め共に準備や片付けを行っている。	○ 広告やテレビから話題を広げ、食べたいものを聞き取ったり、美味しくスムーズに食べてもらえるよう昼食前には口腔体操を行っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物の際、好みのおやつを購入したり家族の差し入れなども持って来られた時には楽しんでいただける様支援している。	○ 行事などでは希望者のみアルコールをお出ししたり10時3時のおやつや水分補給時には色々変え楽しんで頂いている。

グループホーム藤の都(A棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	誘導・自立にかかわらず、全員の排泄チェックをしてパターンを把握、本人に合わせた声かけ誘導を心掛けている。各居室にトイレがあるのでプライバシー・プライドにも配慮しやすい。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1番風呂の希望が多ければ交代でなるように工夫したり、その日に声かけて時間を選んでもらえるようにしている。ゆず湯をしたり、本人のペースで入浴できるよう援助しているが、入浴日は週2回と決まっている。	○	見守りだけで入浴できる方が殆どいなく職員の勤務に合わせた入浴になっているが、2ユニットあり入浴日はずれているので工夫して希望者には出来るだけ入浴を楽しめるようにしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人のペースに合わせながらも、夜間ゆっくり休んでいただける様、日中の離床やレク・作業を勧めたり、入眠前に皆様とおしゃべりしたりと睡眠のリズムが整うよう援助している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人なりの能力を見極め役割分担を決め、して頂き本人の自信に繋がるよう声掛けを行っている。その他レク・作業や散歩などで気晴らしが出来るよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が出来る人には自己管理してもらい外出時には自分で払って頂いている。その他の方は小遣い程度、家族より預かり、出納帳にて管理、本人の要望を受け職員が購入している。	○	管理が出来ない方にお金を持って頂く時も家族と金額の確認し、何に利用したかわかるように気をつけている。買い物ツアーを企画し自分で買う楽しみを援助している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩程度でも行ける方が大体決まってしまう、なかなか外出の機会が少ない。帰宅要求の強い方にはご家族の協力も得て外出の機会を増やしている。	○	足の悪い方にも平等に外出の機会が増えるよう工夫して、交代で散歩に行ける体制に務めている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎年、花見や菊人形見学への企画を立て、家族の方にも参加していただき共に楽しめる機会を持ってもらえるように支援している。	○	本人の希望に合わせ、家族と相談の上行ける機会が増えるよう努力している。

グループホーム藤の都(A棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話があり、かけられるようになっている。また希望にて電話を取り次ぐなどの援助を行っている。	○	ハガキや手紙の返事が出せるようハガキ等の準備をして援助している。字が書けなくとも、ぬり絵など本人が係わった年賀状などが出せるように援助していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	原則いつでも面会できるようになっており、ゆっくりと面会して行って下さる。面会者が、職員、他入所者と一緒に談笑される事もある。	○	要望があれば本人居室に宿泊して頂けるようになっている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が全員、身体拘束の研修に参加し理解して身体拘束を行わないよう取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は夜間を除き開いているが玄関フロアへの入口の扉は防犯の観点からも鍵をかけている。	○	利用者・家族には職員や家族と共になら自由に外出できる事を説明し理解を得ている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜とも利用者の皆様の居場所が確認できる位置にしている。夜勤帯は本人の状態にあわせ最低でも2時間おきにプライバシーに配慮し巡視を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミ、針、包丁等は、本人の状態に合わせて管理してもらっている。管理が難しい方には、ホームで準備し職員と共にいつでも利用できるようになっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルがあり、職員全員が事故防止の研修に参加し知識を深めている。	○	ヒヤリハット・事故等があれば職員はすぐ確認し再発防止に努めている。定期的にマニュアルの確認を行うようにしていきたい。

グループホーム藤の都(A棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルがあり職員も応急手当等の研修を受けている。緊急時には同事業所の医師や看護師に連絡、指示・応援の体制があり管理者への報告、家族への連絡等、迅速な対応が出来るよう心掛けている。	○	マニュアルの確認だけでなく定期的に訓練を行えるようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練(内1回は夜間想定)を行っている。火災・水害時には、緊急連絡網により同事業所内職員が応援に来る体制が出来ている。	○	運営懇談会の折に地区区長さんと協力援助のお願い、事業所としての協力体制を話し合っている。救護用引継ぎ記録を作成し緊急時にも情報の共有、対応が出来るよう準備している。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時に現在の状況を話し、これから考えられるリスクについて説明すると共にホームでの対応の仕方について積極的に話すようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、小さな体調の変化にも気をつけ看護師に報告して対応している。また申し送りを確実にしている。	○	個別のチェック表を作り、日々の状態が一目でわかるようになっている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬されている薬の情報をもらい、飲み残しがない様、透明の袋に入れ時間ごとにわけ職員が管理している。必ず服薬確認を行い変化があればすぐに報告している。	○	間違いがない様ノートを作り、毎日のセット時に投薬量、残量をチェックし確認を行っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜の多い食事を中心に、皆さんの便チェックを行い水分補給時にきな粉牛乳にしたり、毎日の体操等であるべく自然排便があるように取り組んでいる。	○	看護師と相談し薬を飲まれている方にも細かい調整を行っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後に声かけを行い、本人の状態に合わせて援助を行っている。	○	風邪予防のため食前にも手洗いうがいの声掛けを行っている。また同事業所より歯科衛生士が来て指導を受けている。

グループホーム藤の都(A棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同事業所の栄養士に献立を見てもらい決定、本人の状態に合わせ食事形態を変え、全量摂取できるよう援助している。またチェック表により水分制限者が飲みすぎないように注意している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防のマニュアルがあり職員は全員研修を受けている。感染が広がらないように職員は、うがい手洗いの徹底を図っている。必要に応じて、入り口に張り紙をして面会者にも協力をお願いしている。	○	ノロウイルスなど、流行前より用具を一式、別に用意して疑わしい場合にもすぐに対応できるようにしている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買い物は毎日行うようにして、開封後は早く使用するようにしている。調理用具は、食器乾燥機を使用したり、まな板は毎日熱湯消毒している。	○	お刺身や生魚は食べる時間に合わせ魚屋さんより配達してもらっている。また冷蔵庫は抜き打ちで栄養士のチェックが入るようになっている。
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周辺には塀もなく季節の花を植えきれいにし、親しみやすい雰囲気を作っている。近所の方とも交流を行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾には手作りの作品や季節感のあるものを飾っている。調度品や備品などは、ごく一般的なものを使用している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファとテーブル席があり、各自がその時の気分に合った居場所が確保できるようになっている。台所や廊下の奥、窓辺にも椅子を置き、思い思いの場所でくつろげるよう工夫している。		

グループホーム藤の都(A棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・タンス・テーブルはホームの物が置いてあるが、それ以外で本人が必要とする物は使い慣れた物を待ってきてもらっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	早朝や朝の掃除の時間に、入所者に声かけしながら換気を行っている。温度調節には利用者の意見を取り入れながら温度・湿度計で確認し快適に過ごせるよう調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要箇所(フロア・トイレ・ベッド・浴室等)には手すりが設置されている。物干しは高さ調整できるものを用意し椅子に座りながらでも洗濯物が干せるように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入り口に目印の暖簾をかけたり、印しをつけることで、各自が自分の居室を把握し今の所、混乱を招くような状態は起きていない。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホール南側に大きな窓があり、季節をよく感じられ、日向ぼっこをしたり植木やプランターに水やりを楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム藤の都(A棟)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

母体が医療法人の為、持病があっても安心して生活が出来るよう、看護師、医師との連携を密に図っている。また同事業所に療養棟・老人保健施設・デイサービス・小規模多機能があり、本人の状態変化に合わせて柔軟な対応が出来る。利用者がいつも笑って暮らせるよう職員が一丸となって日々の援助を行って、いつも笑い声が絶えない明るいホームである。併設で2ユニットあるため利用者同士の交流があったり、職員の半数を2ユニット共通にする事でより柔軟な対応が出来るように努めている。また運営者主催で定期的に職員の研修会があり職員の資質向上を図っている。